リトル東京で35周年 坂東三津拡

ロス っ子に日本舞踊

米・ロサンゼルス市を中心に、長年日本舞踊の普及に努めている女流日本舞踊家・坂東三津拡（坂東流幹部師範）が、市内の劇場で「三津拡会三十五周年記念古典舞踊発表会」を開き、多くのロス っ子を楽しませた。これまでに三津拡の門をくぐった日系や米人の弟子は六百人を超え、名取や師範も誕生。「日米文化交流に寄与した」として市長らから感謝状が贈られ、功績をたたえられた。（増淵安孝・写真も）

公演を終え、映画のロケにも登場するラスベガスのホテル街を散策する坂東三津拡（右）と花柳寿美

昼の幕開けら「さくら」を踊った坂東秀子

シュワちゃんから感謝状

三津拡は一九二八年愛媛県八幡浜市に生まれた。叔父が四国一の「八幡浜劇場」を経営、こけら落としには歌舞伎俳優の六代目尾上菊五郎を招いたという。

舞踊を始めたのは四歳の時で「母が行儀、しつけのために習わせた」と三津拡。

その後、七世坂東三津五郎の直門師範となったが、両親が亡くなり、六九年、従兄弟を頼りに渡米した。ロス郊外の都市に住み、現地の十四人の弟子と共に「三津拡会」を旗揚げ、毎年のように発表会などを開いて、日本舞踊の普及に努めた。今では他の州などに五支部ができ、持ち回りで会を開くほど。地元のシュワルツェネッガー知事らから「日米交流に貢献した」として五つの感謝状を受けている。

今回の記念舞踊会開催は、ロス市の一角「リトル東京」街にあるジョージ&サカエ・アラタニ日米劇場。二十二年前、日本の政府や企業、ロサンゼルスの企業家らが拠出した寄金で建てられた。日系人らが数多くの公演に利用している、いわば〝日本伝統芸能の殿堂〟。

今月二日、午後零時半の開演を前に、観客は長蛇の列。節目の公演とあって、日本から坂東三津五郎の妹で特別出演の坂東秀子をはじめ、坂東三津二郎、花柳寿美、後見の坂東寛二郎、市山扇之丞らが応援に駆けつけた。

昼の部は、秀子の清元「さくら」を幕開けに、三津二郎の常磐津「老松」、寿美の同「浮世猫」など十二番。トリは三津拡と弟子の秀十美が大和楽「早春」で共演した。

夜の部が、同じく秀子の長唄「富士」で始まり、日系二世関口ジュディー、英国人のスーザン・クレイら五人立ちの長唄「藤娘」、入門二十年になる名取の日系三世坂東拡美枝・拡千都・拡ゆきが芸者や舞子で登場する長唄「祇園の四季」など十二番。三津拡、寿美が常磐津「松廼羽衣」でフィナーレを格調高く締めて、観客席から大きな拍手を浴びていた。

名取、弟子600人を輩出

「松廼羽衣」を共演する坂東三津拡（右）と花柳寿美

「富士」「さくら」三津五郎の妹・秀子が海外初披露

「富士」と「さくら」は、一昨年十月に歌舞伎座で開かれた先代らの追善舞踊会で発表した現・三津五郎の新曲で、海外では初披露。

歌詞に「富士」はへげに大和の―と、流派の隆盛を願ってやまなかった母の心を折り込んだ大和屋の屋号が読み込まれている。

「振付にあたっては初心者にも覚えやすく、ほかの舞踊にも応用がきく、単純で基本的な手を多く取り入れた」という三津五郎。

親を思う心は国境を超えても同じであり、門人や観客も共感を深め、一段と楽しませた。

また、芸者置屋に飼われた三毛猫を擬人化した寿美の「浮世猫」は、所作や振りの面白さが客席を拍手のウズにした。

地元新聞でも大きく報道

同地域で十七万部を発行している新聞「羅府新報」は今回の舞踊会を大きく報道。編集長の長島幸和さんは「目立った活動をしている日本舞踊の師匠は何人かいて、三津拡先生はその一人。教え上手で、育て上手と伝わっています」。

現在、師範十一人、名取三十五人、孫弟子まで含めると百八十人余の門人を抱え、けいこに飛び回っている三津拡。

「私は月謝をいただいて教えているのに、さまざまな感謝状をもらうなんて…。私が英語をほとんど話せないので、お弟子さんが日本語を覚えてくるんです。その貢献のほうが大きいのでは」と冗談交じりに笑う。

坂東三津拡宅で、かつらの髪を結う豊谷徳夫さん（右）と長男の一弘さん

三津拡会の床山には、その道の第一人者だった宇佐美豊次師匠に仕込まれた豊谷徳夫さんを東京から呼んでいる。さらに「お父さんの仕事が手伝えるようになったら、いつでも遊びにおいで」との三津拡の言葉に、長男の一弘さん（三七）が、いつしか片腕に。

「私の思うようになってくれて、とても手つきがよくなった」と息子を見るように目を細める。

「家元（三津五郎）が再来年はこちらで初の坂東会を開く予定です。まだまだ頑張ります」と、三津拡は意欲を燃やしている。

名流

◆名流ホームページは http://www.tokyo-np.co.jp/meiryu/meiryu.htm

かつら教室

徳徳屋　豊谷徳夫

その壱　ここからはじまる役づくり（前編）

《とよたに・とくお》奈良県出身。高校卒業と同時に、劇団新派座付床山の、宇佐美豊次師の許で、住み込み内弟子として10年の修業後、28歳で日本舞踊床山として独立、現在に到る。

賜はりし「徳」の一字や白牡丹

今月から本誌「日本舞踊」に日本舞踊床山としての経験を踏まえた解説を連載いたします。古典作品の基本的な鬘の説明に加え、演目によっては私の創意工夫も随時盛り込んでいきたいと思っています。

連載の初めに一言、私の原点についてお話いたします。冒頭の発句は私が独立するにあたり屋号「徳徳屋」の一字を吾妻徳穂先生から頂いた由来を述べたものです。徳穂先生の徳と私の本名徳夫の徳をとって「徳徳屋」が誕生しました。

日本舞踊は歌舞伎舞踊が基本ですが、舞踊家には女性の方が多く、吾妻先生はその代表として見た目は女形と同じでも軽くて扱いやすい女性ならではのアミの鬘で数々の「道成寺」作品を作り上げられました。それは私の師匠宇佐美豊次が吾妻先生とともにした仕事ですが、私の原点として肝に銘じて継承し続けております。

先ずは古典舞踊の鬘の基本的な各部の名称について説明していきます。

（次回はアミと鋼（かね）をいたします）

協力　かつら大阪屋、舞踊かつら湯浅

丸髷
まるたぼ

髷金(注1)を入れて髷を丸く、地髷に比べて短い。時代物(吉原雀、鳥追いなど)の髷。鹿の子を掛けたら娘にもなります(手習子、お七、団子売の女など)。

注1：髷金は次号にて解説いたします。

地髷
じたぼ

髷金を用いず、毛くずで作る髷。丸髷より髷を出した世話物(芸妓島田など)の粋な役に使います。写実の髷。

※関西では「髱(つと)」と言う。

鬢
びん

役によって、両鬢の、長い短いがあります。また、時代によっても大きく変化します。

前髪
まえがみ

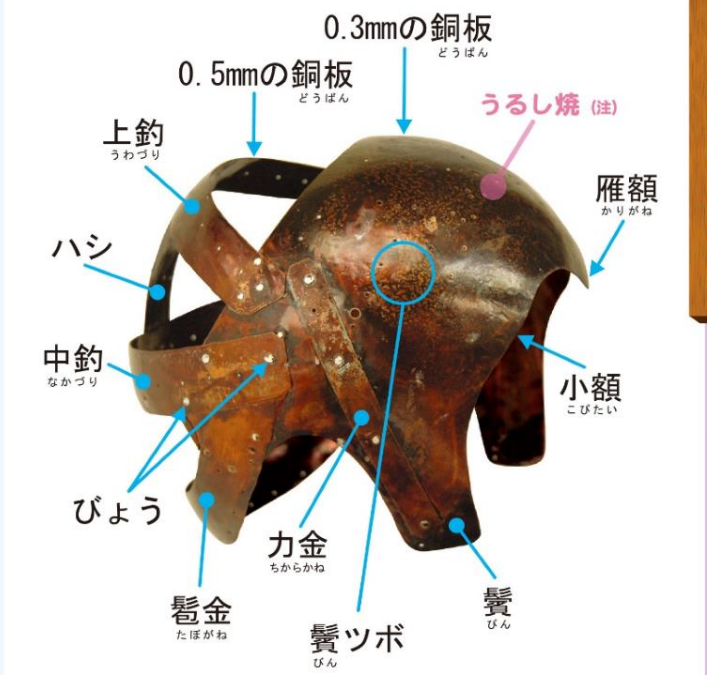
小さめに結う、大きめに結う・・・時代によって異なります。

※前の方に出ている(大きい)と若者。後の方へ引いていると粋。といった作りわけをします。

かつら教室

徳徳屋　豊谷徳夫

その壱　ここからはじまる役づくり（後編）



（注）うるし焼き
銅の地金に**うるし**を塗って火で焼くと、うるしが銅板に焼きついて緑青が湧かない（頭の汗でも錆びない）ようになります。

床山の元結襷や藍浴衣（青峰）

今月はかつらの地金（台金）について説明いたします。

地金には2種類あります。アルミを素材にした『アミの地金』通称「アミ」と言われるものと、銅を素材にした『銅地金』通称「鋼（かね）」とよばれるものです。

この2つを比較しながら解説いたします。

上の図は地金の写真と各部名称を表しています。

《とよたに・とくお》奈良県出身。高校卒業と同時に、劇団新派座付床山の、宇佐美豊次師の許で、住み込み内弟子として10年の修業後、28歳で日本舞踊床山として独立、現在に到る。床山協会役員。趣味の俳句は俳号（青峰）を持ち活躍中。

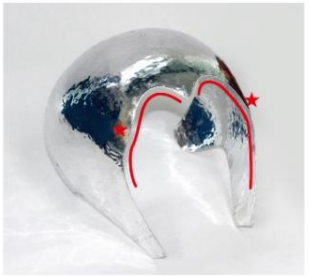
協力　かつら大阪屋、舞踊かつら湯浅

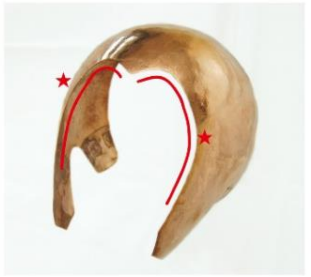
アミの地金『アミ』

銅の地金『鋼』

板状の素材をたたいて頭の形状にしていきます。ーは刳り、★印は小額といいます。

雁額の尖り具合によって役の強味、弱味を表します。(刳りが強いと岩藤、刳りが弱いと釣女の醜女、刳りの美しい物には浮世絵の春信歌麿など)





アミは髪の毛１本１本網の目を通してあります。

鋼は羽二重(注)を通したものを貼ります。

(注) ＝かつらをかぶる時に使うのも羽二重といいます。

古典物、世話物の役によって髷の形も異なってきます。

①羽二重を地金に貼り付けてかつらを仕上げていきます。

②髷金は丸髷を仕上げる時に使います。

①

②

かつら教室

徳徳屋　豊谷徳夫

その弐　手習子（結綿）

道草の手習娘春日傘（豊谷青峰）

町娘（世話物）のものは結綿（注）を多く用います。お染、お七など帯の結びは振り下げが多く、髷は唐毛を多く用います（お七などは髷を捌くため）。手習子は結綿で髷は本毛を用います。

また『昔は手習子は朱房のついた薬玉、つまみの櫛、鹿の子絞りの結綿かけだけであった』と花柳寿南海師は言っておられました。近頃は衣裳の柄も派手になってきたので、薬玉、前挿し、横挿しを用いています。今回の薬玉は桜の柄、前ざしには桜と菜の花をあしらっており、手習子用の**徳々屋オリジナルの簪**です。（49ページ）

（注）結綿＝島田髷の一種。つぶし島田の髷の中央を鹿の子、又は赤やとき色（ピンク）の布で結びつけます。

協力　舞踊かつら湯浅

《とよたに・とくお》
奈良県出身。高校卒業と同時に、劇団新派座付床山の、宇佐美豊次師の許で、住み込み内弟子として10年の修業後、28歳で日本舞踊床山として独立、現在に到る。床山協会役員。趣味の俳句は俳号（豊谷青峰）を持ち活躍中。

《かつらができるまで》

1．地金つくり

2．かつらあわせ
地金を頭の形にあわせます。

3．地金のできあがり

4．結いあげ
毛をつけ、役に合わせて結いあげます。　かつら教室その壱(60巻８、９月号)参照

モデル　花柳寿之吉

かつら教室

徳徳屋　豊谷徳夫

その参　屋敷娘

秋蝶やお宿下りの島田髷

（豊谷青峰）

江戸時代の女性は、御殿風、武家風、町方風など、髷によって階級を表現しています。

屋敷娘は踊り手の好みや、床山の感覚により、かけ物、挿し物も違ってきます。

徳徳屋では、髷は高島田に結い、地髪にして、お宿下りの年頃の娘の浮き立つ心を、華やかに飾りもので表現しています。

協力　舞踊かつら湯浅

《とよたに・とくお》
奈良県出身。高校卒業と同時に、劇団新派座付床山の、宇佐美豊次師の許で、住み込み内弟子として10年の修業後、28歳で日本舞踊床山として独立、現在に到る。床山協会役員。趣味の俳句は俳号（豊谷青峰）を持ち活躍中。

モデル　花柳寿之真瑠

根について

根とは髪の中心となるべきもっとも大事な場所です。髪を結うには、まず根をとります。鬢、髷、前髪の毛を集めて一束になったものを髷として結っていきます。

根の取り方も役柄により高い低いが有り、髷によって年齢、役どころが違ってきます。娘形の桃割れ、結綿から始まり、高島田、中島田、文金高島田（結婚式）で髷の高さが一番高くなります。結婚すると赤い手柄を掛けた丸髷となり、以後年齢と共に根を低くしてゆきます。

花柳宗岳先生より「踊り手によっては、顎を上げ気味の人がいるので、その場合は根が下がって低く見える。それ故、床山は、個々の踊り手の癖を良く把握する事が大切」と教えを受けました。

根かもじ

かつら教室

徳徳屋　豊谷徳夫

その二十　吉野山

《静御前》

雛の家　初音の鼓飾りけり

豊谷青峰

静（吹輪・丸髷）
銀四段姫前挿し
鼓の両天
赤の稲妻、銀の稲妻
赤の縮緬箱結び
姫しけ

忠信（油付）ふかし鬢の前茶筅
棒じけ　お祭付
トンボの元結が特徴

※後に衣裳がぶっ返る場合は、鬢バラ（左ページ図1）になります。

協力　かつら大阪屋

《とよたに・とくお》
奈良県出身。天理高校卒業と同時に、劇団新派座付床山の、宇佐美豊次師の許で、住み込み内弟子として10年の修業後、28歳で日本舞踊床山として独立、現在に到る。床山協会役員。趣味の俳句は俳号（豊谷青峰）を持ち活躍中。
俳人協会会員
「春燈」燈下集作家

《忠信》

お祭

トンボ

図１（髪バラ）

忠信
坂東三津二郎

静御前
坂東三津拡

かつら教室

徳徳屋　豊谷徳夫

その六十四　雪傾城（長唄）

雪傾城には切り禿を使用することもある。

花魁と遊ぶ禿や置炬燵

豊谷青峰

傾城

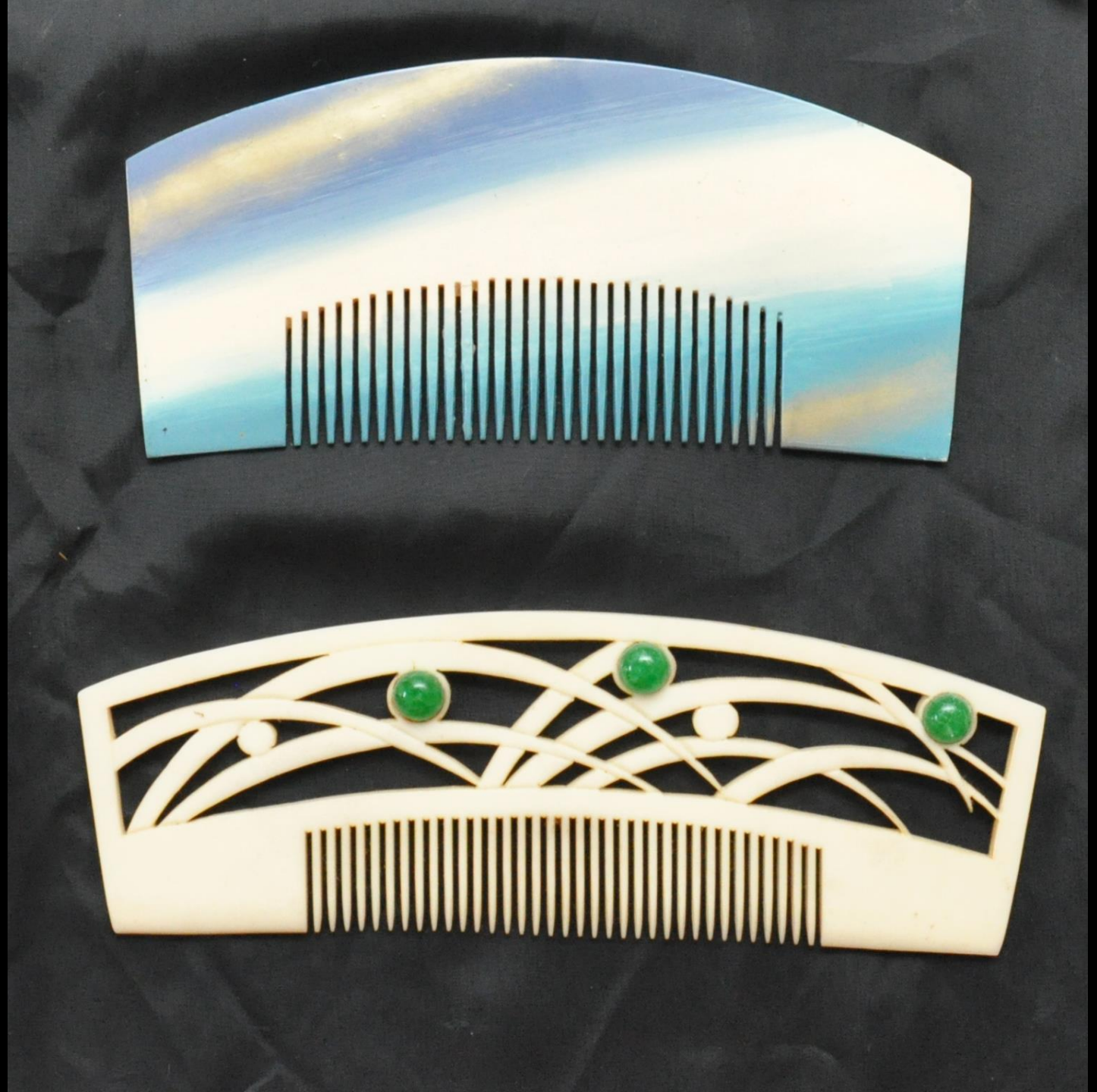
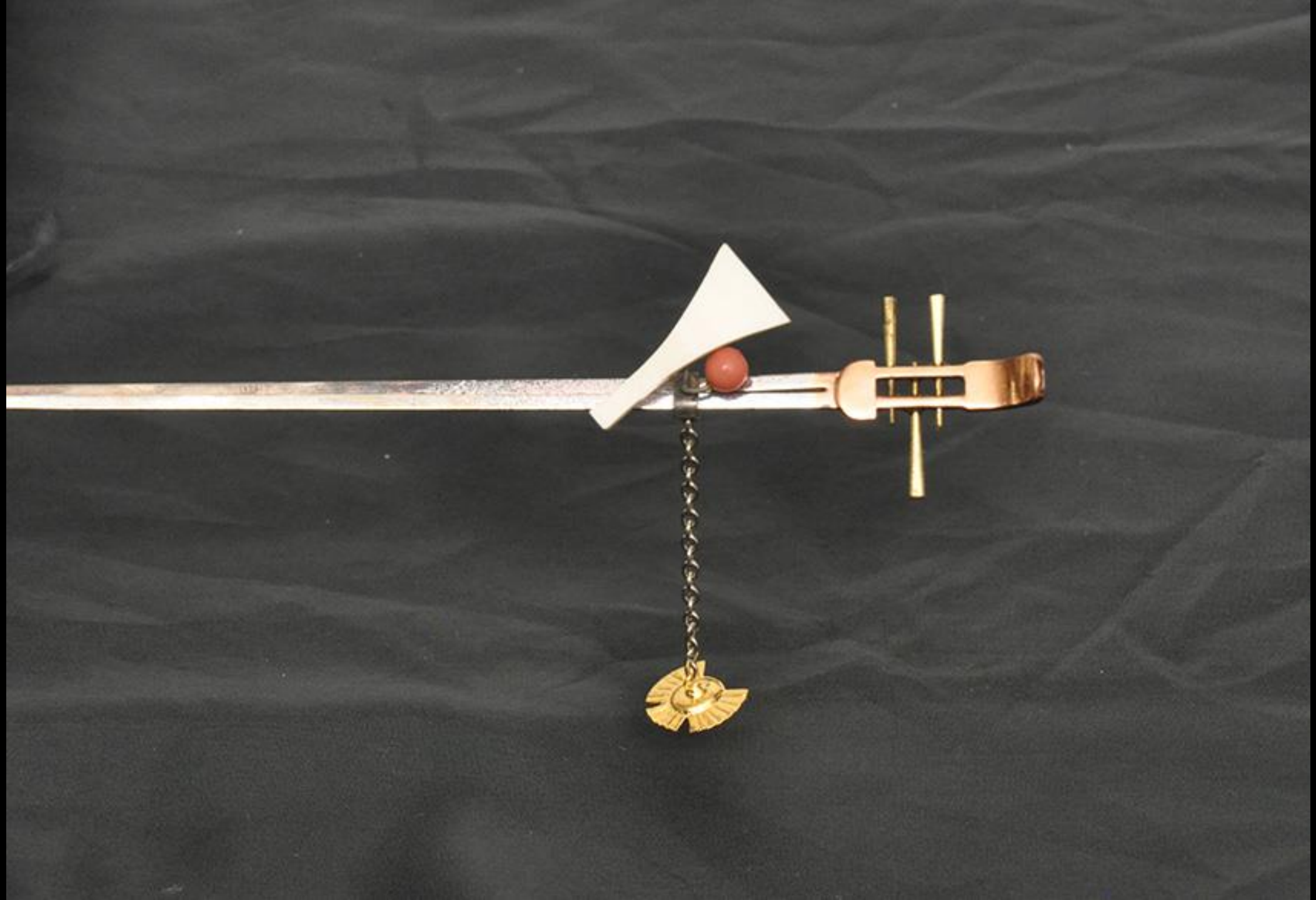
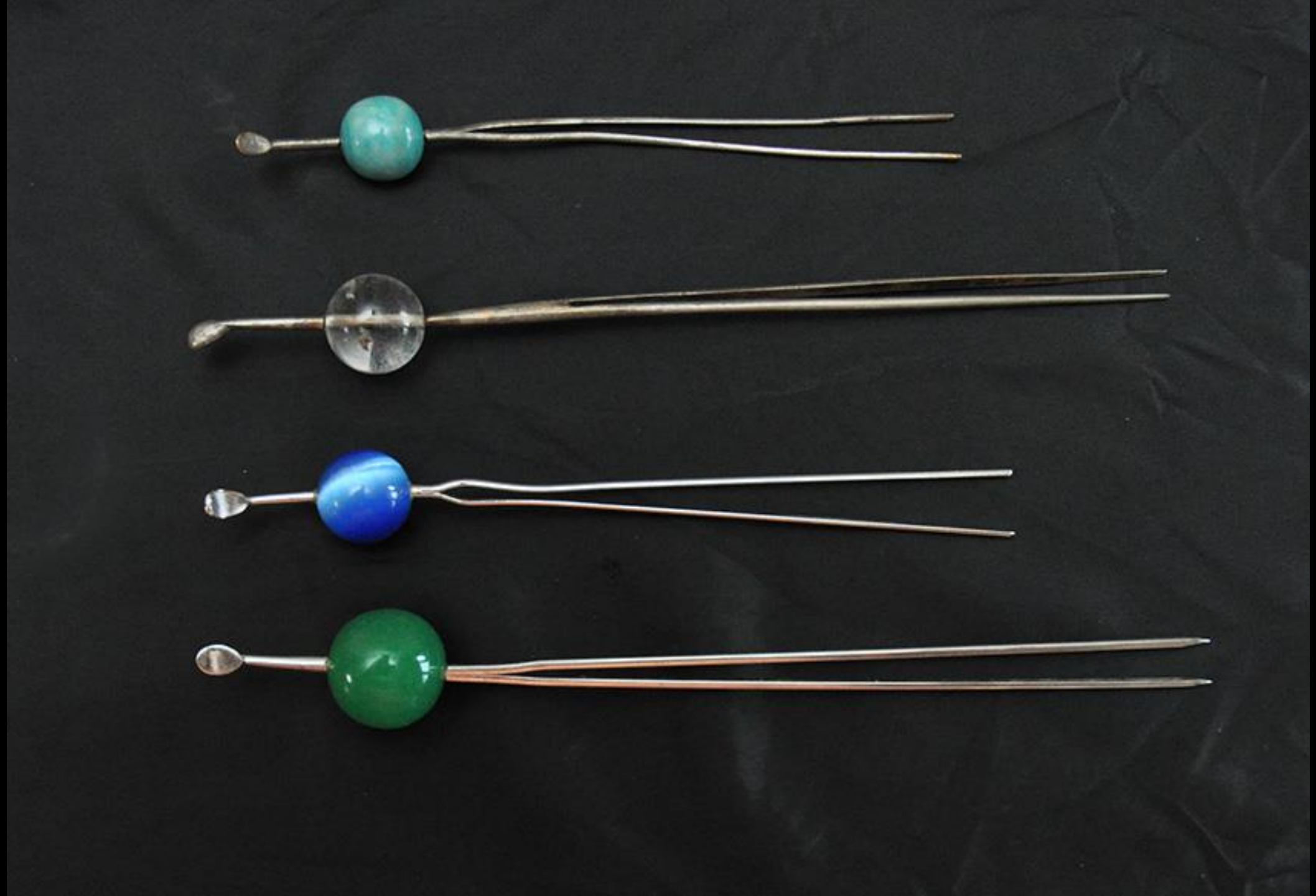
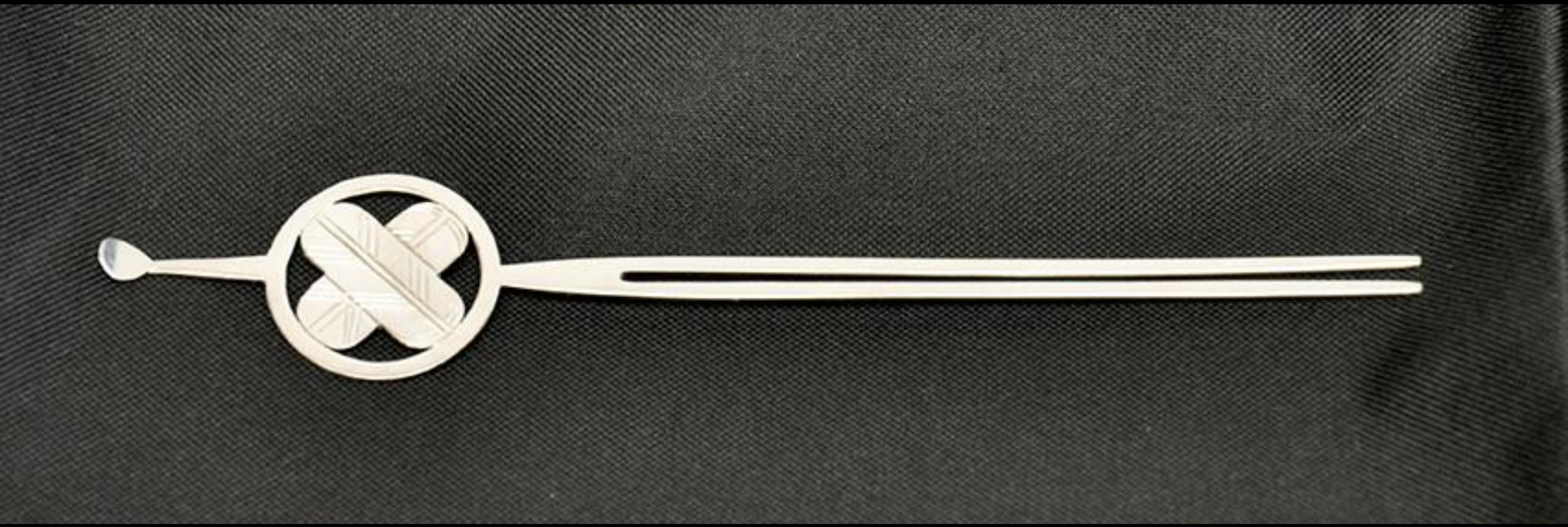
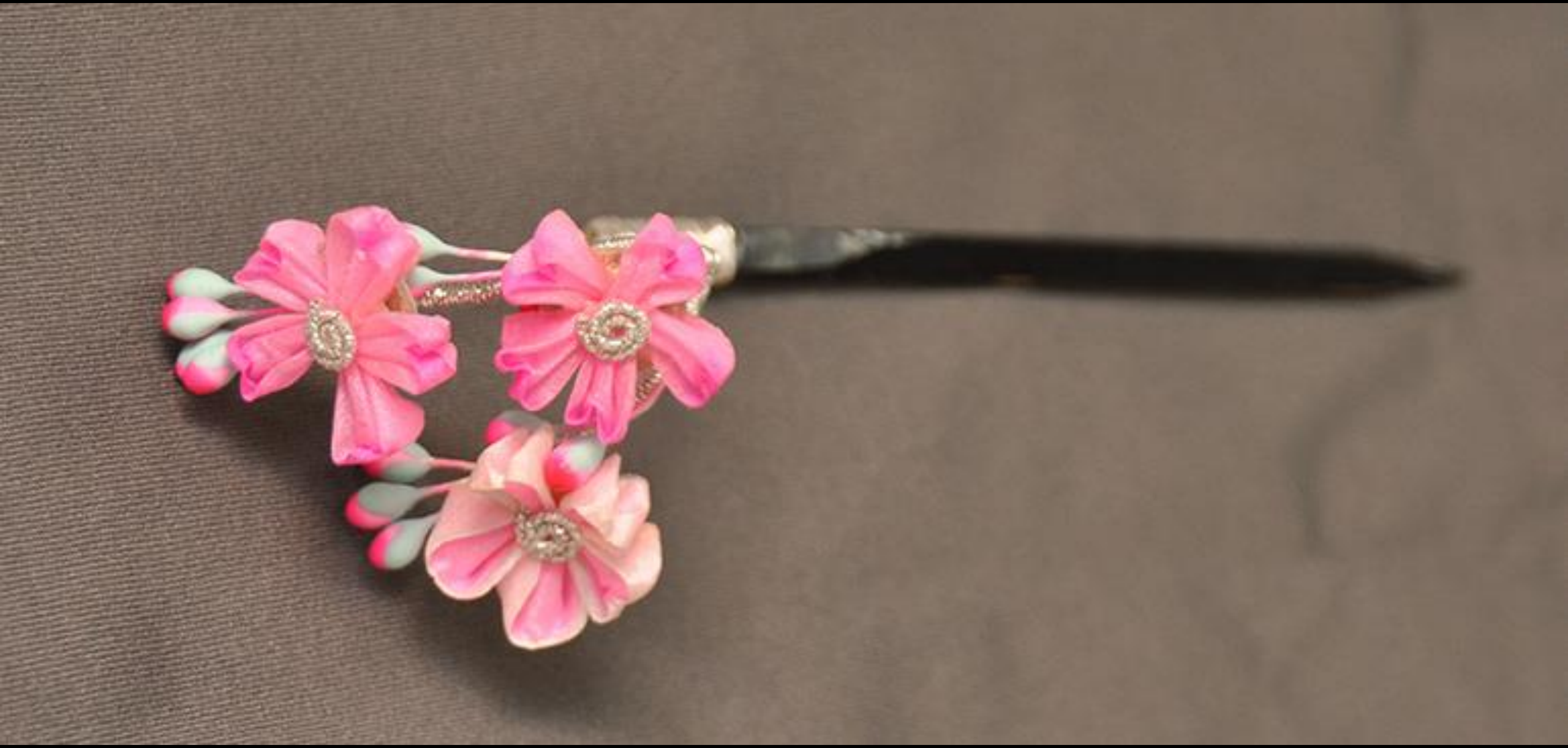
元禄の細い立兵庫
白象牙の櫛
白象牙の琴柱四本
立挿し　赤玉簪
前髪銀糸　根巻銀糸

禿

針打ち島田
槍梅五段の花櫛は、つまみの前挿
槍梅の後挿
根巻　三色ふとん
色元結　つまみの針打ち
赤の打紐
前髪赤の縮緬
赤の稲妻丈長　白瀧

協力　かつら湯浅

《とよたに・とくお》
奈良県出身。天理高校卒業と同時に、劇団新派座付床山の、宇佐美豊次師の許で、住み込み内弟子として10年の修業後、28歳で日本舞踊床山として独立、現在に到る。床山協会役員。趣味の俳句は俳号（豊谷青峰）を持つ。俳人協会会員「春燈」燈下集作家

傾城 藤間勘晃　　禿 船津美登　船津莉央

舞台写真提供　江澤